



倉賀野町上3区副区長。空き家を活用して開館した地域の集会所（コミュニティセンター）の館長を務める。

# 空き家 活用ヒント



吉井町在住。iitoko(いいとこ)代表。空き家を活用し、発達障害の子どもを持つ母親が集える場として整備した。



富岡賢治高崎市長



撮影場所：倉賀野上3区コミュニティセンター

## 倉賀野上3区コミュニティセンター

市の空き家緊急総合対策事業の助成第1号として昨年12月に開館した「倉賀野上3区コミュニティセンター」。これまでは地区に公民館が無く、集会などでは区長の家など個人宅が利用されていた。現在同センターは、町内の集会やカルタの練習などの育成会活動、高齢者向けの体操などで利用されている。地域では気軽に集まれる「場」として今後も活用の幅を広げていきたいと考えている。



## 頑張るお母さん支援事業「iitoko(いいとこ)」

「いいとこ」は発達障害の子どもがいるお母さんを支援する団体として昨年5月に設立された。空き家緊急総合対策事業の助成を使って吉井町内の空き家を改装し、今年1月にサロンとして開館（左写真は開館時のイベントの様子）。「実家のような」を合言葉に、障害のある人も無い人も気軽に立ち寄れるサロンを目指している。



ここに明かりが灯るようになって、近所の人も安心してたようです。

**市長** 浅香さんは頑張るお母さんの支援ということ、発達障害の子を持つ母親が集まる場として空き家を活用されたんですね。

**浅香** はい。発達障害の子を持つお母さんは、どう育てていけばいいのかわからなくて悩んでしまっている人が多くいます。孤獨な人が多いです。そこで有志10人で「いいとこ」という支援団体を作りました。活動を始めると反響が大きくなり、拠点が必要になったんです。

**市長** なぜ空き家を？

**浅香** 居心地のいい「実家のような」ところを探していて、「これだ」と思いました。

**市長** お二人とも所有者との話はすぐにまとまりましたか。

**宮井** はい、連絡をしたら家主さんも制度をご存じで、すぐに承諾してくれました。

**浅香** うちのスタッフの親戚の持ち家でした。活動の趣旨を話してお願いしたら、改修費の3分の1を支援してくださいと。本当に居心地の良いところで、ここならお母さんたちも少しづつ

悩みを解決できるかなって。

**市長** 居心地を考えると公の施設では難しい。活動は吉井地域の人ですか？

**浅香** 箕郷や市外の人もいますよ。スタッフに美容師がいて「いいとこカット」というのもやっています。自閉症の子などは自分の思いを伝えることが難しいので、子どもが切ってもいいよと合図を出すまで待つんです。これまで嫌がる子の髪を無理やり切っていたお母さんたちの「あつたらいいな」をかなえるために始めました。利用したお母さんが泣きながら末永いお付き合いよろしくお願ひしますと喜んでくださって。

**市長** それはうれしいですね。良い話を聞かせてもらいました。お年を召した方も同じで、居心地の良いお茶のみ場所などは、市が作るのも難しいですね。町内に感じる場所がいい。他にも吉井や榛名、倉洲の人口減少地域の対策として都市部の家族が空き家を借りて住む場合に、家賃を半額補助するという制度もあります。都市部では小学生の間

に子どもを農村部で生活させるような家庭があると聞きます。こうした人たちに利用してもらえないか、考えていきたいと思っています。

**地域の努力を応援**

**市長** 運営も何も手作りだから、使い始めると不満も出てくるでしょう。

**宮井** 少ない町内会費で運営しているのも、もっと整備してよと言われるのも簡単にはいかない。それが悩みです。この設備は、テーブルとイス以外は住民が持ち寄ったものです。座布団とか。看板も手作りです。

**市長** それは立派ですね。

**宮井** この家賃も市に5分の4も補助してもらっているからこれ以上望むのは無理です。自分たちでできることはやらないと。

**市長** 行政だけではとてもできません。自助努力が大事です。空き家の助成制度が始まって1年。今後は設備類の支援なども考えていく必要がありますね。頑張る市民を応援していきますよ。本日は貴重なお話をありがとうございました。

**宮井・浅香** ありがとうございました。